

## 実世界と仮想世界など（3）

仮想世界と実世界との境がわからなくなるといってしまうと、そんな馬鹿なことではないと思われるかもしれませんが。確かに映画の中ではいろいろな形で作られています。そんなことは実際に起こるわけがないと考えられるかもしれませんが。しかし、本当に今いるところが実世界だと核心もって言える理由は何でしょうか。触れる等を中心に五感による感覚としての実感によるものが中心となります。確かに夢と現実の違いでよく言われるのが、叩いたりして痛みを感じられることとありますが、本当に夢の中では痛くないのでしょうか。それはともかくとして実世界というのは五感を中心とした外部からの刺激により実感するもので、実際は頭の中で脳が感じたものが作り上げたものとなります。この脳で感じられたものが実世界となると、思い込みによって違ったものにもなりかねません。例えば過去の経験などは、時間がたつにつれて実際に体験したものか、別の情報によって作り上げられたものかが分からなくなってしまう。つまり与えられた情報によってはどれだけでも違ったものになりうるということです。極端な話、10人がいればそれぞれに実世界を持つ10の世界が存在することになります。そんな馬鹿なといわれるかもしれませんが、例えば同じ赤という色にしても、人間の目の網膜で感じ、脳で判断することによって赤は存在するわけですから、十人十色の赤となっていていいはず。つまり、赤が実際脳では青に見える人がいるかもしれません。脳の中ではどう感じているかまではわからないわけですから。長々と実世界はどうと書きましたが、このように実世界が外部情報によって脳で構築されるものであれば、インターネットなどからの情報によってそれはいかにも実際に体験したように感じてしまうこともありうるということです。ネット上だけの会社、ネット上だけの友人などが存在するようになると、ネット上だけの世界を仮想世界とするとその境目はどうなるのでしょうか。触ったりできないということからすれば実世界ではないのでしょうか。仕事をする、友人と話をする、物を買う、売るなどからすれば実世界との境はないようなものです。これまでは実際に体験することによって情報を受けていましたが、これからは周りの環境がネットワークと接続されるようになるわけですから、知らないうちに情報が集められ、知らないうちにネットワークを利用するようになっていきます。ネット上の会社と取引を行い、ネット上で友達をつくり、チャットやメールで交流し、あったことも無い遠くの友と付き合いようになります。そうなれば仮想世界と実世界の境目が堂のということとはなくなっていくのではないのでしょうか。距離も関係なく、時間も自由となれば、これまでの社会形態が変わっていくことにもなるかもしれません。対応できればよいのですが、仕事は必要な人材、技術を世界中から必要なだけ集めて行う。報酬は出来高を直接個人に分配するとなれば、これまで1企業となっていたものが各部門ごとに分業され、複数のネット上の会社で構成されるということになるかもしれません。仕事によって構成される仮想の企業です。例えば、製品をつくるにしても、資材は専門会社が世界中から調達を行い、必要な技術をもった複数のこれも世界中から集めた会社に材料を供給し、部品を作り、取りまとめの会社がそれを作り上げる。設計もネット上に公募することによって世界中からいろいろなアイデアが集まるでしょうからその会社に委託する。過去のしがらみは無く、よりよい技術を集約して、よりよいものをより安く作ることが可能となります。しかし、対応できるベンチャ企業ならいいのですが、対応できなければ大変です。（次回へ続く）

(情報誌トピックス)

○日経エレクトロニクス 2月11日号

- 特集 パッケージの新潮流 3次元実装はケータイを超えて  
→ケータイで定着した3次元実装技術「システムインパッケージ(SIP)」は1つのパッケージの中にメモリやマイコン受動部品を複数詰め込んだもの。この方式はケータイから情報家電へと広がっていく。
- 解説 Bluetoothの雪解け  
→携帯電話不況や無線LANの隆盛で失速しそうになったBluetooth。ようやく省電力化や低価格化で携帯電話機への搭載やパソコンへの搭載が進みそうになっている。

○日経パソコン 2月18日号

- 特集 マイ・ポータル作成基礎講座  
→自分の使いやすいWebサイトの管理、呼び出しの方法「マイ・ポータルサイト」。これは自分のローカルにスタート用のホームページをつくる方法。便利なサイトにリンクをはったり、ファイルやフォルダーも一発でオープンできる。
- 解説 MSにどんな情報を送るのか  
→WinXPやOfficeXPの自動送信機能で何が送られているのか気になる。エラー発生時にはエラーの内容と解析に必要なパソコンのデータなどが送られている。たまには作成中のデータも送られることもある。

○日経オープンシステム 2月号

- 特集 フレームワークで生産性をあげる  
→短期開発と熟練技術者不足の解決のため「フレームワーク」を整備する企業が増えている。フレームワークはWeb環境で共通に必要な機能を覆い隠すあるいは自動作成する開発実行環境で、処理の雛形的なものを作って整備したもので開発効率があがる。実際の内容と、どのように使いこなしていけばよいか。
- 調査 WWWブラウザのセキュリティ意識  
→日経BPの調査では、75%が最新のパッチを適用しているが、全く対処していないユーザも多く意識の2分化がはっきりしている。

○日経ネットビジネス 2月10日号

- 特集 顧客を逃がさないネットトラブル解決法  
→配送ミス、代金未回収、ウィルス感染などネットビジネスにはトラブルが多い。トラブルにどう対処するかによって顧客が逃げるかどうかが決まる。トラブル解決の“ワザ”は。

○DOS/V magazine 3月1日号

- 特集 PC激速・静音化テクニック全集  
→自作PCならやってみたいPCの高速化と音をできるだけ小さくする静音化。簡単な方法から音を押えるテクニックまで。